

会員リレーエッセイ

SEAN会員のみなさんに、お願いしているリレーエッセーです。
最近の関心ごと、SEANとの関わりへの思いなどなど。
会員間のつながりになればと願っています。

生きる知恵がいっぱい詰まっているものをどうぞ！

なにわ語り部の会 鏑 栄美子(かざり えみこ)

昨今の子どもに関わるつらい事件を見聞きするたびに「またかー」と行き場のない気分が陥ってしまう。

人は「社会が悪い」「学校が悪い」「親が悪い」「そもそも悪いのは……」と簡単に言う。ではそのうち、いったい何人が解決の糸口を探るために行動するものだろうか？

「評論家」になるのは簡単だが、なにもしない人の空論はもう聞き飽きた。

思いを他人に伝えることができずに抱え込み、こうしたらどうなるかと考えることを放棄し、短絡的に行動してしまう子どもや青少年が増えているのだという。

「心の寂しさを『適切なことば』で表現できない子どもたちをこれ以上増やしたくない。子どもを育てる良い環境の一つに「本やお話のある場所」がある。子どもと一緒に読書の喜びを味わい、昔話やお話を聞き、語ることで、感動を共有しあうのである。

たとえば昔話には人間が生きる力や生きるための知恵がいっ

ぱい詰まっている。

洋の東西を問わず、大人が子どもに共同体の歴史や行事、作法、物語などを語りながら知恵を授けてきたことは、ここで改めて言うまでもないが、日本では、とくに都会では近年急速にその場が失われてしまった。

国は2001年に「子どもの読書活動に関する法律」をつくり、大阪府は2003年に「子ども読書活動推進計画」を、大阪府は2006年3月に「大阪市子ども読書推進計画」を発表した。それを受けて地域の図書館を中心に、お話や絵本ボランティアの養成講座が盛んになった。昨年、私はいくつもの講座を担当させていただき、そこで多くの人たちに出会った。

参加者たちは「評論家」よりもまず自分が「絵本のおばちゃん(おじちゃん)」になろうとして集まってくる。子育てが終わった人、子育て中、とさまざまに、絵本やお話の奥深さを知り、楽しさを再発見してくれる。自らが学んで子どもに伝えたいと言う。

昨年10月に私たちは『語りの

時間』を出版した。

私たちというのは、かつて私が受けたお話の語り手養成講座の講師で、なにわ語り部の会を育てて来られた禅定正世さんと、大阪市の地域図書館の司書で館長もされた小林康代さんと私の三人だ。

それぞれの専門分野から絵本、お話の語り、お話会についてのノウハウも含めた実践を綴った一冊である。自らの意志で絵本やお話を通して子どもたちや地域の人たちに関わろうとしておられる人たちには、テキストとしてぜひ読んでほしいと願っている。

※『語りの時間』

著者…鏑 栄美子

禅定 正世

小林 康代

(社福)大阪ボランティア協会

ボランティアテキストシリーズ ⑱

著者…定価…1,260円

(本体1,200円+税)

